

## 船舶事故調査報告書

令和2年2月5日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 佐藤 雄二（部会長）  
 委員 田村 兼吉  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	令和元年9月29日 04時25分ごろ
発生場所	富山県伏木富山港外港 富山東防波堤灯台から真方位085°1,190m付近 （概位 北緯36°46.0′ 東経137°14.5′）
事故の概要	プレジャーボート <sup>フェアリー</sup> FAIRYは、東進中、消波ブロックに衝突した。 FAIRYは、同乗者2人が負傷し、右舷船首部外板に破口を生じた。
事故調査の経過	令和元年10月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート FAIRY、5トン未満 244-18105富山、個人所有 6.32m (Lr) × 2.25m × 1.25m、FRP ガソリン機関、84.6kW、平成10年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成28年10月24日 免許証交付日 平成30年3月9日 （令和3年10月23日まで有効）
死傷者等	軽傷 2人（同乗者）
損傷	右舷船首部外板に破口
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期 月出時刻：05時51分ごろ 月齢：0.4
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、親族である同乗者4人を乗せ、魚釣りをを行う目的で、令和元年9月29日04時15分ごろ富山県常願寺川河口付近に向けて伏木富山港富山区の係留地を出発した。 船長は、白色全周灯及び両舷灯を表示するとともに、左舷船首部ハンドレールに取り付けた300Wの投光器を船首方に向けて照射しながら、操舵室右舷側の操縦席に腰を掛けて手動操舵により操船を行い、富山東防波堤灯台の灯光を右舷方に見て通過した後、右転した。

	<p>船長は、陸岸の明かりでうっすらと見えていた離岸堤（以下「本件離岸堤」という。）を右舷方に見ながら約8ノットの対地速力で通過し、本件離岸堤の東側に設置されている消波ブロック（以下「本件消波ブロック」という。）が、本件離岸堤の延長線上に設置されていると思っていたので、そのうち右舷方に見えてくると思い、同じ針路及び速力で航行を続けた。</p> <p>本船は、伏木富山港外港を東進中、船長が、船首方至近に投光器により照射された本件消波ブロックを認めたものの、どうすることもできず、本件消波ブロックに衝突した。</p> <p>同乗者は、船長の指示により、海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>船長及び同乗者全員は、来援した富山市消防局の救助艇に救助された後、同乗者2人が救急車で病院に搬送された。</p> <p>本船は、海上保安官の操船により伏木富山港富山区に回航された。（付図1 事故発生経過概略図、写真1 本船 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船の喫水は、船首約0.4m、船尾約0.3mであった。</p> <p>船長は、本船の操船経験が約5回あり、夜間の操船は本事故当日が初めてであった。</p> <p>海図W1162A（伏木富山港富山）によれば、本件消波ブロックは、本件離岸堤の延長線上よりも約40m北方に突出している。</p> <p>船長は、本事故当時、本船のGPSプロッターを起動させていたものの、操作方法を知らず、速力及び釣り場の水深を確認するために使用しており、目視のみで船位の確認を行っていた。</p> <p>船長は、本事故当時、投光器の照射距離が予想していたよりも短いと思った。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、伏木富山港外港を東進中、船長が、GPSプロッターの操作方法を知らず、また、本件消波ブロックの正確な設置状況を知らない状態で、本件消波ブロックが本件離岸堤の延長線上に設置されていてそのうち右舷方に見えてくると思い、目視で航行を続けたことから、本件離岸堤の延長線上よりも北方に突出している本件消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が伏木富山港外港を東進中、船長が、GPSプロッターの操作方法を知らず、また、本件消波ブロックの正確な設置状況を知らない状態で、本件消波ブロックがそのうち右舷方に見えてくると思い、目視で航行を続けたため、本件消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>

<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 航行前に海図等を確認して航行予定海域の水路調査を行うこと。</li><li>・ 夜間に航行する場合は、GPSプロッターの操作方法を習熟して船位を十分に確認すること。</li></ul>
--------------	--

付図1 事故発生経過概略図

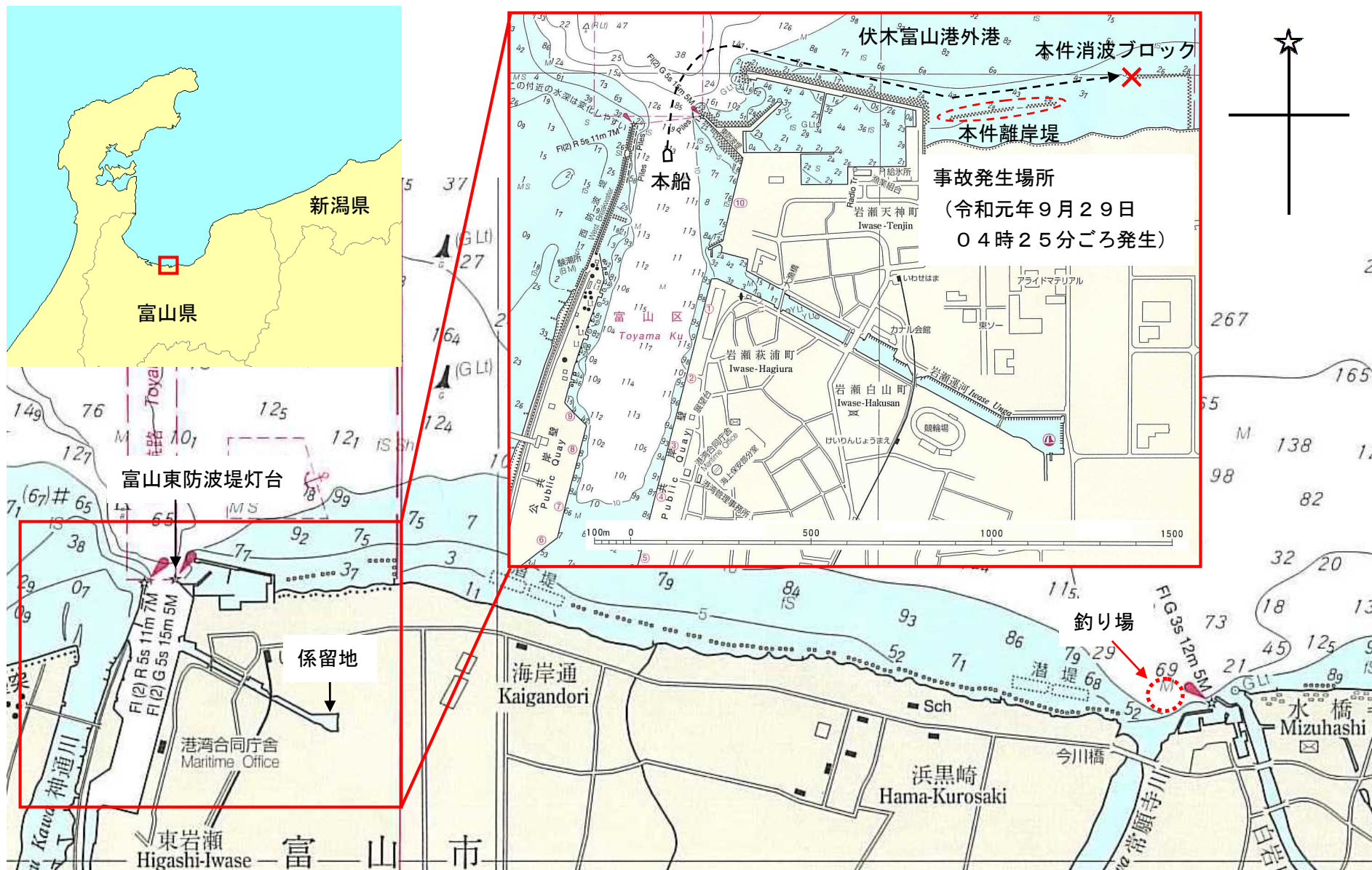


写真1 本船

